



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



古巣 馨神父を招き 11月15日(日)

福者レオ七右衛門殉教祭

十一月十五日(日)午後、川内教会で「福者レオ七右衛門殉教祭」が開催される。この催しは、一六〇八年に信仰を棄てなかったために斬首刑に処せられた「薩摩の殉教者レオ税所七右衛門」の遺業を称え、その列福を願って記念されてきた

川内殉教祭が昨年の列福式でその目的を達したため新しい名称となったもの。今年も催しも昨年までと同様、講演、記念ミサ、巡礼今年講演を担当してくれ

ガリラヤから「新たな出発のために」で午後一時から始められる。講演後は記念ミサがささげられ、その後、レオ七右衛門が受洗した京泊教会の跡地へと巡礼する。

さんの内容だった。大盛況に終わった大熊小教区では、毎年十月の第三日曜日「召命の日」と決め、来年から大熊小教区出身の司祭や修道者にも登場してもらいたいと夢を膨らませている。

また小教区でプロジェクトを購入した大熊小教区では、月に二回、キリスト教関係の映画上映も決めており、ますます熱気を帯びてきている。

唐湊墓地には現在約四百の墓が立っているが、ここを使用する前は草牟田の墓地がその役を担っていた。一九二三年購入の記録のある草牟田の墓地は、「その中に石垣で囲まれた美しい十字架が立てられた。石垣で囲ってある所は、鹿兒島で死ぬであろう宣教師たちのため。外は信者たちの墓地となる」と教区の歴史に記されている。

父に連れられて行った魚釣りの帰りの出来事。日も暮れ出し、漸く戻って来たバスセントー近くの食堂で、「腹が減った」とせがんだ僕に父はカレーを食べさせてくれた。父はと言えど何を食べるでなく大好きな焼酎を口に。一杯が二杯に、そしていつものようにその場で眠った。暫くして店の人に「勘定を」と起こされた父だったが、財布はその要求にこたえることのできるものではなかった。その場に僕を残し金を工面しに席をたつた父だったが、閉店までに帰って来ず「もういいよ」という店の人の許しで、店の外で父を待った。長い寂しい時間だったことを記憶している。それ以来、父と外出するときには「財布は？」と「お金はあるの？」と問いただすようになった。

祈ろう！ 未来の聖職者のために 大熊小教区で「召命の集い」



十月十八日(日)大熊小教区(アン神父主任司祭)で「召命の集い」があった。この集いは、司祭年を過ぎすにあたり信徒たち「今年一年、今の聖職者、今は亡きお世話になった聖職者、未来の聖職者のために祈って欲しい」と訴えたアン神父の「未来の聖職者のために」に企画されたもの

で、二十人余りの子どもたちが参加し、これを三十数人の大人たちが見守った。この日はミサ、ロウソクの奉納、映画の上映、修道者からのメッセージの紹介、ロザリオの祈り、そしてアン神父自身の司祭職への歩み出しのきっかけとなる思いの紹介など盛りだく

前高松教区長・深堀敏司教が九月二十四日(木)午後、入院先のイエズスの聖心病院ホスピス(熊本市)で肝臓ガンのため帰天した。八十四歳だった。深堀司教は、一九二四年(大正十三年)十月に長崎に生まれ、一九五一年十二月司祭に叙階。福岡司教館

死者の月の十一月十四日(土)午前十時から、鹿兒島市唐湊にあるカトリック墓地で久しぶりに死者のためのミサがささげられる。また今年、整備を終えた草牟田の教会墓地跡地でも

今年五月から壮年たちが汗を流して整備してきたのは、この歴史ある草牟田の教会墓地の整備のため。長年荒れ果てていた地が美しく生まれ変わり、二十一日(土)午前十時からミサがささげられる。

自分と親の間には「少しだけ自分と人間らしくなってきたか？」と考えること。自信家で、自惚れ屋で、利己主義の自分が子供の誕生と成長の過程で、いつの間にか主役の座を降り、脇役・黒子に徹している。損得勘定抜きで人の成長を願い続けている。初めてだと思っ

新風

十一月は死者の月です。自分のことだけを考

すると縁起が悪いといわれて嫌われ

自分たちもその復活にあずかることを望んでいる私たちはその前に、キリストとともに死んだことを思いだします。キリストとともに死んだというの

迎える準備になります。「神の母聖マリア、罪深い私たちのために、今も、死を迎えるときも祈って下さい」私たちはいつもマリア様にこう祈っています。(H・N)

父に連れられて行った魚釣りの帰りの出来事。日も暮れ出し、漸く戻って来たバスセントー近くの食堂で、「腹が減った」とせがんだ僕に父はカレーを食べさせてくれた。父はと言えど何を食べるでなく大好きな焼酎を口に。一杯が二杯に、そしていつものようにその場で眠った。暫くして店の人に「勘定を」と起こされた父だったが、財布はその要求にこたえることのできるものではなかった。その場に僕を残し金を工面しに席をたつた父だったが、閉店までに帰って来ず「もういいよ」という店の人の許しで、店の外で父を待った。長い寂しい時間だったことを記憶している。それ以来、父と外出するときには「財布は？」と「お金はあるの？」と問いただすようになった。

それは亡くなった人たちに對する感謝と、自分自身の死の準備をするためです。日本人は、一般的に亡くなった祖先のためによく祈りますが、生きていて人が死について話したり

死の月には、死がその人を覆っている、生きていて自分たちとは交わって欲しくないのです。イエス・キリストの復活を信じ、

死者の月に寄せて

迎える準備になります。「神の母聖マリア、罪深い私たちのために、今も、死を迎えるときも祈って下さい」私たちはいつもマリア様にこう祈っています。(H・N)

父に連れられて行った魚釣りの帰りの出来事。日も暮れ出し、漸く戻って来たバスセントー近くの食堂で、「腹が減った」とせがんだ僕に父はカレーを食べさせてくれた。父はと言えど何を食べるでなく大好きな焼酎を口に。一杯が二杯に、そしていつものようにその場で眠った。暫くして店の人に「勘定を」と起こされた父だったが、財布はその要求にこたえることのできるものではなかった。その場に僕を残し金を工面しに席をたつた父だったが、閉店までに帰って来ず「もういいよ」という店の人の許しで、店の外で父を待った。長い寂しい時間だったことを記憶している。それ以来、父と外出するときには「財布は？」と「お金はあるの？」と問いただすようになった。

YET

四十数年前、父に連れられて行った魚釣りの帰りの出来事。日も暮れ出し、漸く戻って来たバスセントー近くの食堂で、「腹が減った」とせがんだ僕に父はカレーを食べさせてくれた。父はと言えど何を食べるでなく大好きな焼酎を口に。一杯が二杯に、そしていつものようにその場で眠った。暫くして店の人に「勘定を」と起こされた父だったが、財布はその要求にこたえることのできるものではなかった。その場に僕を残し金を工面しに席をたつた父だったが、閉店までに帰って来ず「もういいよ」という店の人の許しで、店の外で父を待った。長い寂しい時間だったことを記憶している。それ以来、父と外出するときには「財布は？」と「お金はあるの？」と問いただすようになった。

初代教会	⇒	トリエント公会議	⇒	第二バチカン公会議	⇒	パウロ六世
長老	⇒	司祭				
助祭	⇒	助祭	⇒	終身助祭制度認可		
副助祭	⇒	副助祭	⇒			廃止
侍祭	⇒		⇒	祭壇奉仕者		
		祓魔師	⇒			廃止
		読師	⇒		⇒	朗読奉仕者
		守門	⇒			廃止

祭壇奉仕者、朗読奉仕者はトリエント公会議（一五四五〜六三年）以後、教会位階制度に置かれていた七つの叙階の内、侍祭と読師の役職が発展し、第二バチカン公会議（一九六二〜六五年）以後、『公会議』というを経て、パウロ六世の使徒的文書「ミニステリア・クエダム」（一九七二年八月十五日）により、信徒に開かれた役割となりました。（図参照）

『公会議』はこれまでの典礼を大きく変更した会議でした。特に、ミサの国語化、信徒の典礼への意識的・行動的参加を促し、信徒養成の重要性を強く意識しています。『典礼憲章』14、29、30、36項参照

図に見られるように、教会位階制度には現在三つの位階が信徒に開かれています。本来男性だけに限られていた助祭、祭壇奉仕者、朗読奉仕者の三つでした。祭壇奉仕者と朗読奉仕者は典礼秘跡省発行「クレド・ド・ベロン」（一九九四年）により現在は女性にも認められ、助祭は助祭叙階式、祭壇奉仕者（聖体奉仕者・教会奉仕者・宣教奉仕者）と朗読奉仕者は選任式により、司教からそれぞれの奉仕職に任じられます。

Ⅰ 信徒による『終身助祭』は『公会議』で認められた男性に限られた聖職です。初期キリスト教の時代から、日常生活で共同体に仕える助祭職があり、典礼の場でも「奉仕者」としての役割を担っていました。中世になり、「小教区と主任司祭」制度が確立される過程で、助祭職の必要性が減ってきたことにより、徐々に終身助祭制は衰退していき、初期キリスト教時代からあった助祭制度が見直され、司教・司祭を助けるために任命される信徒に開かれた終身の叙階による奉仕職となりました。助祭は司祭の代役ではなく、むしろ典礼や秘跡における奉仕だけでなく、教会活動の中で「仕える・愛する」という本質的部分を表す大切な役割と

は直接に役務として全教会で認可されている役務ではありませんが、各司教区において裁判権者である司教により認可される制度です。

鹿兒島教区での『宣教奉仕者』は前教区長系永真一司教により、認可され現郡山司教も認可されている制度です。『宣教奉仕者』として定められた養成を受け、主任司祭の推薦に基づき、二年間の任期において、司教により選任されます。ここで扱う『祭壇奉仕者』はミサの中で、司祭席や祭壇近くで行われる奉仕についてです。特に「侍者」の行う奉仕がそれに当たります。

① 入堂で、香炉・十字架・ろうそく・聖書を持つ『祭壇奉仕者』に伴われ荘厳に入堂する司教ミサの場合、「キリストの現存を表して」というと

いう用語は『祭壇奉仕者』の役務の一部が聖体を授けためだけに使われる場合（司祭が種々の事由で聖体を授けられない、信徒数が多くて一人の司祭では拝領に時間が掛かり過ぎる、司祭不在時の集会司式時に信徒に聖体を授ける、病人が多く司祭一人では訪問できないなど）に用いられるようになってきました。⑨ パテナやカリスを片付けるのを手伝う。

ミサの時、助祭がいれば、上記の他に福音を朗読したり、祭壇の上に聖体布を広げたり、ミサ典礼書を準備する、『平和の挨拶』を交わす呼びかけ、『感謝の祭儀』が終わったことを告げることなど、助祭がするべき祭壇奉仕があります。

Ⅲ 朗読奉仕者（レクトール）聖書朗読がなぜ大切なので

考えるべきでしょう。日本では一九九五年、司教協議会で導入が決定され、鹿兒島教区では現在、三人の『終身助祭』が働いています。

Ⅱ 祭壇奉仕者（アコリトス）従うというギリシャ語に由来は本来、男性だけに限られた任期のない終身の役務のため世界的にもあまり普及してきませんでした。広い意味では終身助祭も『祭壇奉仕者』ということができますが、現在では神学生が司祭叙階前に受けるべき役務というように理解されています。日本にも殆ど司教から任命を受けた信徒はいませんが、『聖体奉仕者・教会奉仕者・宣教奉仕者』という呼び名で各司教区において選任されています。『聖体奉仕者・教会奉仕者・宣教奉仕者』

言えます。『典礼憲章』7項②旧約聖書や使徒書を読む朗読奉仕者を朗読台まで一緒に案内したり、マイク操作や朗読聖書を整えること。③福音を朗読する助祭や司祭に『祭壇奉仕者』が香やろうそくを持って付き添う。④パン・ブドウ酒・献金の時に司祭が受け取ることを助ける。⑤ブドウ酒や水を司祭がカリスに注ぐのを手伝う。⑥手を洗うのを助ける。⑦奉献文が唱えられる時、祭壇の周りに立つ『祭壇奉仕者』は「皆で主の食卓を囲んでいる」ことを表しています。⑧ 聖体拝領は信徒がキリストと一致するミサの頂点と言える場面です。司式司祭の両側に立つことや、参加者が多い場合に聖体を授けたりすること。『聖体奉仕者』と

しようか？それは典礼自体が神の救いの業を思い起こすことから始まるからです。歴史の中で神がなさった救いの業を思い起こし、今も恵みを持って私たちに働きかけられる神に祈り、その御業の完成を待ち望むところに典礼中になされる朗読は重要なのです。「聖書が教会で読まれる時、キリスト自身が語る」（『典礼憲章』7項）と言われるように朗読をとおして神ご自身と私たちが結ばれるからです。そのため朗読者の養成は重要です。『朗読聖書の諸言』59項）朗読の目的は共同体のためです。から、少なくとも「聞きとれる声で、はっきりと、味わえるように」（『朗読聖書の諸言』14項）読むことが大原則です。当番制になっている場合、緊

祭壇奉仕者、朗読奉仕者について

北薩宣教奉仕者（信徒使徒職）養成講座

出水教会主任司祭 大松 正弘

張で早く読んだり、間違いがあつたりすることが多々あると思えます。前もって準備をしておくことが大切です。何度も読んでおくことや実際に聞いてもらって、感想を聞いてみるのが大切です。あるいは自宅で、少なくとも朗読箇所の中身に入っていくために何度か読んでみることもだけでも最低限必要でしょう。

聖書朗読はただ「読むこと」だけではありません。読みながら、神の言葉に耳を傾ける行為です。集会を代表して、自分の肉声をもって、神のこぼを受け止める役目です。このことを心を込めてやっているうちに、集まっている人々の聞く心も育っていくでしょう。この朗読と拝聴の実践を通して「教会は神のこぼによって建てられ、成長していくのです。（『朗読聖書の諸言』7項）

+KABAYAN SEKSIYON+

"Maria" Huwaran ng Pananampalataya

Marahil, mas maraming natututuhan ang maraming Pilipinong Katoliko tungkol sa Pananampalataya mula sa kanilang debosyon sa Birheng Maria kaysa iba pang mga paraan. Ganap na nakabatay ito sa Kasulatan na naglalarawan kay Maria bilang ganap na huwaran ng pananampalataya. Sa pamamagitan ng kanyang "Oo" sa Pagbati ng Anghel, siya'y "nagiging huwaran ng pananampalataya". Binibigyan-diin ni Lukas ang pagka-kaiba ng pananampalataya ni Maria sa kawalan ng paniniwala ni Zacarias sa pagbati ni Elizabet. "Mapalad ka sapagkat nanalig kang matutupad ang ipinasabi sa iyo ng Panginoon". Sinulat ni Juan Pablo II na "sa mga katagang 'mapalad kang nanalig' ay matatagpuan natin ang isang uri ng 'susi' na magbubukas para sa atin ng kaloob-loobang katotohanan ni Maria, na binati ng anghel bilang 'napupuno ng grasya'".

Ganap na isinabuhay ni Maria ang mga karaniwang kahulugan ng pananampalataya bilang "buong pagpasailalim ng pag-iisip at kalooban" at ang "pagsunod ng pananampalataya". Ngunit personal niyang ginawa ito, kasama ng lahat ng kanyang pantao at pambabaeng "ako" at ang tugong ito ng pananampalataya ay kinapapalooban ng ganap na pakikiisa sa "biyaya ng Diyos na nangunguna at tumutulong." at ganap na pagbubukas ng sarili sa kilos ng Espiritu Santo na "laging nagdadala sa pananampalataya tungo sa katuparan sa pamamagitan ng kanyang mga kaloob". Ipinagpatuloy ni Lukas ang ganitong tema ng pananampalataya ni Maria sa kanyang ikalawang kinasihang aklat kung saan inilarawan niya ang pagkakabilang ni Maria sa "mga sumasampalataya" sa sambayanang apostoliko pagkatapos ng Muling-Pagkabuhay.

Tunay na isang mabisang inspirasyon si Maria sa atin sapagkat lagi niyang isinabuhay ang pananampalataya sa lahat ng katotohanan ng karaniwan at pang-araw-araw na pamumuhay, kahit sa mga krisis sa pamilya. Nagbibigay ng isang ganap na halimbawa ang salaysay ni Lukas tungkol sa "paghahanap nila sa batang Jesus sa Templo". Mayroon unang yugto ng pagkamangha sa pagkakita kay Jesus sa templo sa gitna ng mga guro. Ang pagkamangha ang kadalasa'y simula ng pananampalataya, ang tanda at kondisyon upang mabago ang "takbo ng ating isip" at matuto ng mga bago. May natutunan si Jose at Maria mula kay Jesus ng araw na yaon.

和善の窓からその①

「和善」とは

和善とは、和と善、つまり平和と善性ということです。耕心というのは、和と善をもって自分の心田を耕そうということに付けたもので、基本的に「自分づくり」を強く意識した学びの集いです。

和善の聖書、あるいは「生活の中で読む聖書」という集いは、かれこれ35年の年月を重ねました。その間の私自身の学びと、また研修センター時代（元日本カトリック研修センター）に、アジアの教会の取り組みである「アシパ」(AsIPA) プログラムを通してアジアの内外で積むことができた種々の貴重な体験を、興味ある皆様と分かち合いたいと思っています。御言葉そのものに基礎を置き、第2バチカン公会議とFABC（アジア司教協議会連盟）の指針に沿って「教会のいのち」を全面的に振り返るという取



り組みです。言うまでもなく「生涯養成」の取り組みです。それは「教会としての取り組み」ですが、同時に「個としての自分」の生き方に及ぶ修行でもあります。

「和善の聖書」ということで、ささやかな奉仕が実現できることを祈っています。このコラムで、毎月小さなアイデアをご紹介しますので楽しみにいただければ幸いです。

現在のプログラム（本部棟3階）

- 月曜日 18時30分（救済史）
 - 水曜日 18時30分（フォーカシング）
 - 金曜日 10時00分（救済史）
- ※月は満席、水金はあと10人ほど参加可。
和善耕心塾 (<http://mr826.net/wazen/blog>)
ファシリテータ松田清四朗

主任司祭に車の贈り物 星塚・大根占教会のある鹿屋小教区

十月八日(木)午後、鹿屋教会に白い軽自動車が届けられた。中古で六十六万円で購入したというこの車を待ちわびていたのは、主任司祭のタム神父。鹿屋に赴任して間もなくから自動車学校へ通い始め、数回の



そのタム神父は、これまで鹿屋小教区にある星塚と大根占の教会に足を運ぶためにはタクシーとバスを利用していた。それには費用もいるし、何より時間がかかってしまう。そんな神父の苦労を見かねた信者たちがそれぞれの教会で費用を出し合い、この度の車の購入に踏みきった。

催し物のお知らせ

●黙想会「イエスと共に生きるために」
11月28日(土)10時～29日(日)16時
マリア山荘(霧島市溝辺町麓3616-4) ☎0995-58-2994 指導:W・キッペス神父 申込先:西 ☎0995-63-1943 宮地 ☎099-262-4022

●黙想会「交わりの死について」
11月29日(日)14時 ザビエル教会一階ホール 無料
主催/和善グループ有志の会 後援/連合壮年会・ヨセフ会

●学習会 自分との対話「フォーカシング」を学ぼう
毎週水曜日 18時30分 教区本部3F「和善の部屋」 指導:松田清四朗神父

伊集院ザビエル祭

九月二十七日(日)恒例の伊集院ザビエル祭があった。参加したのは青年の呼びかけにこたえた十人余りの信者たちだったが、ここ数年続けられてきた行事を継続しようと参加した。朝七時徒歩でザビエル教会を出発した一行は、約二十五キロの道を歩き、午後二時から目的地であるザビエルが宣教の許可を島津貴久にもらった一宇治城跡



ゴールはまだ先

司教執務室便り

もう一つの巡礼地

ブログでも何度も取り上げたことだが、草牟田教会墓地跡の整備が終了した。十字架や壘名の刻まれた墓石が横倒しになり、立派な石造りの十字架の周りにめぐらされたやはり石材でできた柵も壊れて部材は散乱。まるで廃墟! 荒れ果て、放置されたままの教会墓地跡に愕然として立ち尽くしたのが今年の二月半ば。どこかの知事さんではないが、「ドゲンかせなイカン!」早速、気心の知れた連合壮年代表に自分の思いをぶつけた。早速市内の教会を中心にした壮年たちのネットワークが動き出した。何回かにわたる市役所との交渉の末五月三十一日に着工。以来日曜日ごとに十人ほどのボランティアが集まりコツコツと工程表どおりに作業が進められ、ついに廃墟が「聖地」に生まれ変わった。

当初、市役所に提出する書類の「作業目的」には「環境美化」と書いた。まさに、環境の美化が実現した。それ以上に嬉しいのは、壮年たちの献身的奉仕によって聖地が誕生したということだ。世間の人々から寄せられたこれまでの不評を払拭して余りある。かつて近くにあったシスターたちの乳児院で亡くなった子供たちも教会墓地跡に葬られたと聞く。残念だが今ではその手がかりすらつかめない。どうしたことか。そうした不運な幼子たちのためにも祈る巡礼地にもなれば良いと思う。また、広大な草牟田墓地を見下ろせる利点は全ての死者のために祈る場所としてもふさわしい。

そんな思いを込めて来る二十一日(土)十時から整備された墓地跡の祝別式のと死者ミサを捧げることになった。実は、二月の衝撃的十字架発見のとき期待するものがあつた。「整備してここに眠る全ての死者のためにミサを捧げた。こんなにも早く実現するとは想像もしなかつただけに正直言って嬉し。晴天を祈るばかりだ。



誕生日にはミサへ 小宿のダウン神父

小宿小教区のダウン神父が信者の誕生日にその信者と家族のためにミサをささげ始めた。ダウン神父といえば、一昨年の五月にマニラで叙階され、その後日本語の習得に励み、今年の四月に小宿に着任したばかり。まだまだ日本語には苦労しているそうだが、それでも宣教への熱意は人一倍。着任して間もなく、信徒名簿に皆の生年月日を書き込んでもらい、誕生日にその日生まれた信者のためにミサをささげ始めた。それもただささげるだけではなく、その前日には電話をかけ「明日はあなたの誕生日。私はあなたのためにミサをささげます。明日の朝は教会に来て

短信

▼レジオ鹿コミチウム
十月七日ザビエル教会で黙想会を開催。指導は阿久根の山口重義神父。
▼聖心教会堅信式
十月十一日(日)十三人が堅信の秘跡を受けた。

11月の会と催し

- 1日(日) 諸聖人 母間教会献堂五十周年ミサ
- 2日(月) 死者の日
- 8日(日) 年間第三十二主日
- 9日(月) ラテラン教会の献堂
- 10日(火) 司祭評議会・教区本部・10時
- 10日(火) 教区司祭会・教区本部・16時
- 10日(火) メニヒ神父霊名(テヨドル)
- 10日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 14日(土) 柳本繁春神父霊名(聖レオ一世教皇)
- 14日(土) ガブリエル神父命日(一九七八年)
- 15日(日) 共同墓参「死者ミサ」・唐湊墓地・10時
- 15日(日) 年間第三十三主日
- 15日(日) 福者レオ祭・川内教会・13時
- 15日(日) 聖書週間・22日まで

神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。各教区では、聖書への関心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。このような催しに進んで参加するとともに、自分でも積極的に聖書に近づきましよう。たとえば、毎日欠かさず聖書を一章ずつ読む方法や、ミサにあずかれなくても、ミサの聖書朗読の当日分を毎日読む方法も勧められています。

- 16日(月) レンブートル会例会
 - 17日(火) 奄美例会
 - 20日(金) 三木巖神父命日(二〇〇〇年)
 - 21日(土) 共同墓参「死者ミサ」・草牟田墓地・10時
 - 22日(日) 王であるキリスト
 - 23日(月) シドッチ祭・屋久島教会
 - 29日(日) 待降節第一主日
 - 30日(月) 聖アンデレ使徒
- 【司教日程】 1日母間教会献堂五十周年ミサ、7日〜8日福岡出張、9日教区司祭会、10日定例司祭集会、15日福者レオ七右衛門殉教祭、17日〜19日日韓司教交流、21日神学院祭、22日〜23日シドッチ祭、24日〜12月2日アジアニューズデー(フライピン)

参加者募集 郡山司教と行く屋久島シドッチ祭

●日程 11月22〜23日 ●費用 三万五千元(高速船・専用車・宿泊一泊二食付・昼食二回付) ●募集人員 25人(最少催行人員20人)
※申込・問合せ ヨセフ会巡礼担当・徳永善廣(携帯〇九〇一三六六九一〇四二三) ☎〇九九一二〇六一七二二一

信仰と漢字(十一)

純心学園 司祭 岡 俊郎

「腰に帯を締め、ともし火をともしいなさい」(ルカ12・35) 立腰教育を思い出しました。腰は大切、肉月に「要(かな)だから」なるほど要は肝腎(心)要と言われるほど、体の中心的役割を果たす肝臓・腎臓(心臓)を守る大切なものです。字源辞典には足腰が生きる上で大事な働きをすると解説があります。私も足腰が丈夫になることが生きる力なのだ、母の生き様を思い出します。

小学五年の時、母は自分の脹脛を見せながら「血管が瘤のようにこつこつと盛り上がりつつあるのは、子供を沢山産んだから」と教えて下さいました。そして男の子を五人も産めたのも、永遠の命である神様からの贈り物・授かり者だったと誇らしそうでした。その実りでしょう。徹底して生きる力・やる気を発揮して、父亡き後も益々やる気一杯の生涯を全うされました。子供を沢山産んだのも、腰が丈夫で本当に生き活きと

毎日の生活を心一杯味わったからでしょう。また要の「西」は背骨の形を書き易くまとめたものと考えられます。同時に何らかの意味付けもあって、西としたのだと思わざるを得ません。私の思いの中に西方浄土・救いの地、キリストのおっしゃる天の国という確信が芽生えました。

実際、太陽は生ける力を具体的に与えようと東から現れ、地上の存在者を励まし、西に沈み隠れてしまいます。人間も太陽に倣い、昼にやる気一杯で元気をを使い、夜の闇の中で命の働きを蓄えます。そして朝になると、また太陽のように生き活きと光り輝く生き様なのです。体は光り輝き照らし合う仕合わせな生き様なのです。この体の生き様は命の働きの実りであること、聖母は私たちに教えて下さいます。

そして命の働きに徹するため聖母に助けを願うロザリオの祈りを味わう十月は、十一月の死者の月を救

みことばシリーズ⑥

触れるとは「聞くこと」V

教区助祭 四條 淳也

みことばを聞くには他にどのような方法があるだろうか。みことばを聞くことと思えば、永いカトリックの歴史の中で培われた方法が沢山ある。その中からいくつか紹介しよう。

そのうちの一つに最近話題になっているレクチオ・デイヴィナについて述べてみよう。二〇〇八年十月パチカンで開催された世界代表司教会議(シノドス)のためにレクチオ・デイヴィナの実践を促進する本が出版された『レクチオ・デイ

の月として迎える心構えを育てる日々だとも。主がともし火(燈)をともしなさいとおっしゃる通りです。腰骨と息丹田を学びたり神戸の日々は老いし我が糧なり。天からの授かり者と我を知り命はたらく親子の道ぞ

べきであると定められている。神的読書と言われており、聖書の読み方について四つの段階に分かれている。①まず最初にレクチオ(読む)、個人で読む、交替で読むなどいくつかの方法で紹介されている。②次に黙想する。みことばを通して、神は何を私たちに話しているのか静かに聞いてみよう。③祈る。聞いた言葉に話しかけてみよう。何か答えが返ってくるはず。④最後に黙想する。言葉は必要ありません、ただ静かに、神



と心を一つにして、静かに時が経つのを待つ。簡単に述べてみたが、詳細は種々の解説書を参照されたい。やさしい入門書として『目からウロコ 聖書の読み方』レクチオ・デイヴィナ入門がある。次に「聖書百週間」という聖書通読の方法もある。旧約聖書、新約聖書の全てを指導者の指導のもとにグループで読む方法である。また、みことばを解説した『注解書』を読むのも一つの方法である。それから定められた場所で宿泊しながら行う「黙想会」も有効であろう。鹿兒島教区でもマリア山荘で黙想会が行われているので、ぜひ参加されたい。

ルルドに電飾

和光園教会

四十年前に献堂された和光園教会は、聖堂の側にルルドがあります。このルルドを大熊小教区の主任司祭アン神父の発案で電飾を施し、十月四日(日)夕方に祝別しました。電飾に係る工事は同じ小教区の浦上教会ヨゼフ会青

堀景雄会長が行いました。アン神父は母国ベトナムできれいに飾られているルルドを思い、ハンセン治療所内にあるこのルルドも美しくしたいと思われたのです。因みにロザリオの月の十月末には、毎年このルルドの前で、ロザリオとマリアさまへの賛美の「マリア祭」が行われています。(報告 平 三國)



文

芸

短歌

大 口 森 博伸

もしかして我ひと粒の麦のまま稔らぬころを生きてあらずや

鹿兒島 春山マリ子

洗礼の感動今も残るけど自信なくしてでもなお生きる

鹿兒島 前田 儀子

世の中の厳しさ常に知るけれど痛むハートは隠せはしない

鹿兒島 前田 儀子

日曝し墓の弟おもひつつ聖堂にひざまづき安息祈る

鹿兒島 前田 儀子

パパさまの平和ブロンズ丘に立つ秋風そつとほほをなで行く

純心学園 川上 和

吾も紅書いてよろこぶ老シスター創立の七十五年や姉妹集う

鹿兒島 春山マリ子

年行きて祈りも新たに忘れ去る大小の人生送る秋の風

純心学園 川上 和

カトリック通信講座のご案内

分かりやすく書かれたテキストを読み、解答はがきの設問(3~4問)に答えを書き込んで返送するという通信講座です。キリスト教を知りたい、学びたいと希望されながらも様々な理由で教会を訪ねることができない方やより学習を深めたい方々に最適です。どなたでも、何時からでも、どの講座でもご自分のペースで受講できます。

講座 [全7コース]: T001「キリスト教とは」・T002「聖書入門(特)」・T003「キリスト教入門」・T004「神・発見の手引」・T005「聖書入門(監)」・T006「幸せな結婚」・T007「生きること死ぬこと」

受講料: T001~T004 4,500円(教材費・税込)
T005~T007 5,000円(教材費・税込)

申込方法: 郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001~T007)をご記入の上、受講料を下記まで。

振替口座番号: 00170-2-84745 加入者名: オリエンズ宗教研究所
お問合せは「オリエンズ宗教研究所」

〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5 ☎03-3322-7601